

mimesis - MIMESIS

吉岡千尋 Chihiro YOSHIOKA

造形芸術学部 非常勤講師



図1. 右「MIMESIS I - 2」油彩、金属粉、蜜蝋、白亜地、キャンバス・160 × 130cm・2016年 左「mimesis I」テンペラ、金箔、白亜地、寒冷紗、パネル・29.9 × 21.2cm・2015年

「吉岡千尋個展 skannata- 模写」アーツスペース虹，平成 28 年 2 月，京都，撮影 Tomas Svab

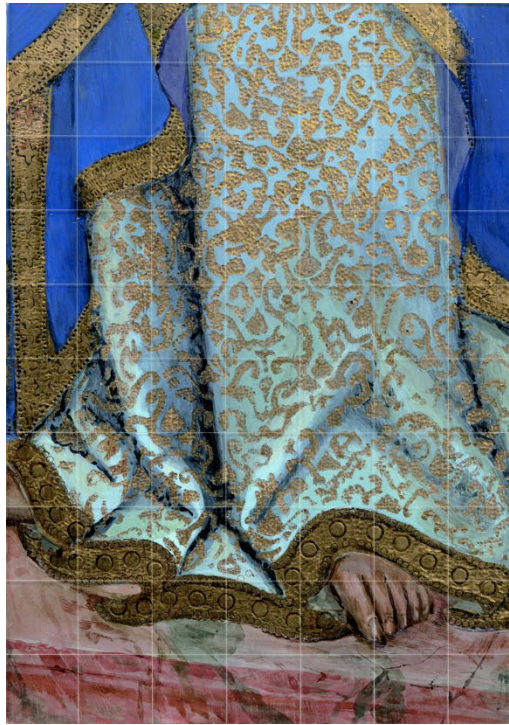


図2. 「mimesis I」
テンペラ，金箔，白亜地，寒冷紗，パネル
29.9 × 21.2cm・2016年
パオロ・ディ・ジョバンニ・フェイ「キリスト降誕」
シエナ国立絵画館所蔵（部分模写）

イタリア・シエナで観たイコンの聖人が纏うアラベスク模様の衣装。その平面的でありながら複雑な視覚効果を持つ装飾部分の模写を試みる事から始まる「mimesis-MIMESIS」シリーズ。このシリーズでは、模写によって絵画の持つ物質的な層が明らかになる一方、模写が完成に向かうと絵画の表面はその構造を隠し、再び陶酔するような装飾へと戻ってしまいます。この一連の行程の中で得た感覚を大きく引き伸ばし拡大した油彩画を描き、模写と並列して展示しました。

下地塗り，磨き，砥の粉引き，金箔貼り，テンペラによる描画，金箔の打ち出しなどいくつかの層と作業を伴う模写を通して見えてくるのは，テンペラ画制作の工芸的な作業の持つ精神性，衣装の凹凸を無視して横断する平面的な模様から推測される透視図法以前の空間意識や，イコンの需要による大量生産や装飾が必要とされた時代背景です。

今後も消費と保存修復の二項対立の中で，その都度人間の認識の変化を一身に受けている作品の表層を眺めることから制作を深めたいと考えます。